長崎市立大園小学校学校だより

「できた！」

令和５年　２月　９日

No.２６

文責　校長　木下和敏

２月生活目標「大きな声で あいさつ 返事」

１月にお願いしました「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。子どもたち、保護者の皆様、そして職員の評価をまとめ、現在、学校評議員の皆様のご意見をいただいているところです。いただいたご意見は、次年度の学校運営に生かしていきたいと思います。

昨日、全校集会を行いました。２月生活目標は「大きな声で あいさつ 返事」です。学校評価アンケート「あいさつをよくしている」の項目での評価は特徴的であり、保護者の方からもご意見をいただいているところでした。学年のまとめと次の学年に向かう準備をする時期ですので、子どもたちに自分の姿を振り返ってもらえるよう全校集会での講話の内容としました。あいさつは、社会生活をよりよく過ごすために欠かせないものです。これからの生活の中で、「あいさつをよくしている」に自信を持って応えられるよう努めてほしいと思います。

【２月全校集会 校長講話（一部抜粋）】

みなさんは、今朝、起きて学校に着くまでに、何人にあいさつできましたか。家の人、近所の人、交通指導員の人、友達、先生…数えてみてください。十人以上あいさつできた人は、すごいですね。

さて、あいさつは、なぜするのでしょうか。

前も学校だよりに書きましたが、交通指導員の方が「大園小学校の子どもたちはあいさつがとても上手になりました。」というお話を笑顔でしてくださいました。みなさんの元気な「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」のあいさつは、みなさんを見守ってくれる方の心のエネルギーになっているのだと思うと、とてもうれしいですね。

１月に学校評価アンケートを実施しました。その中に「あいさつをよくしている」という問いがありました。結果はどうだったと思いますか。みなさんからの回答は、ほとんどの人が「あいさつをしている」というものでした。では、先生方の回答はというと…「みなさんの半分くらいの人しかあいさつができていない」という回答でした。どうしてこんな違いが生まれるのでしょうか。そのヒントとなることをお家の方が書いてくれていました。「大園小学校の子どもたちはとても元気だけど、学校の中であった時にあいさつをしてくれないのが残念です。」という言葉です。

あいさつは短い言葉ですが、人と人とが心を通わせる大切な瞬間です。あいさつはする人もされる人も気持ちがよくなります。廊下ですれ違う時など言葉にしなくても軽く礼をする会釈でもいいと思います。先生方がすれ違う時を見ていてください。「お疲れ様です」などの言葉を掛け合っていますよ。登下校の時間だけではなく、学校の中でもあいさつを心掛けることができるようになると、もっと素敵な大園小学校の子どもになると思います。

私が心掛けていること、それは「あいさつは、相手より先にする」ということです。自分の方から心を込めて先にあいさつしたら、相手もあいさつを返してくれます。それは先にあいさつをした私の気持ちが相手に通じたことになります。私の言葉を受け取って返してくれたと思うと、心のキャッチボールができたようで温かい気持ちになります。２月の生活目標は「大きな声で あいさつ 返事」です。みんなで取り組んでいきましょう。

落とし物がたくさんあります

児童玄関を入って左側の廊下に３学期に入って届けられた落とし物を展示しています。なかなか持ち主が現れないのが現状です。氏名が書かれていると持ち主に返すことができますが、無記名の場合は持ち主に見つけてもらうしかありません。授業参観で来校されたときに、是非、ご覧になってください。